

提出データ目次

2023/8/25

第3回 工程検証委員会（2023年8月1日）後の指示事項 指示受領日 2023年8月1日

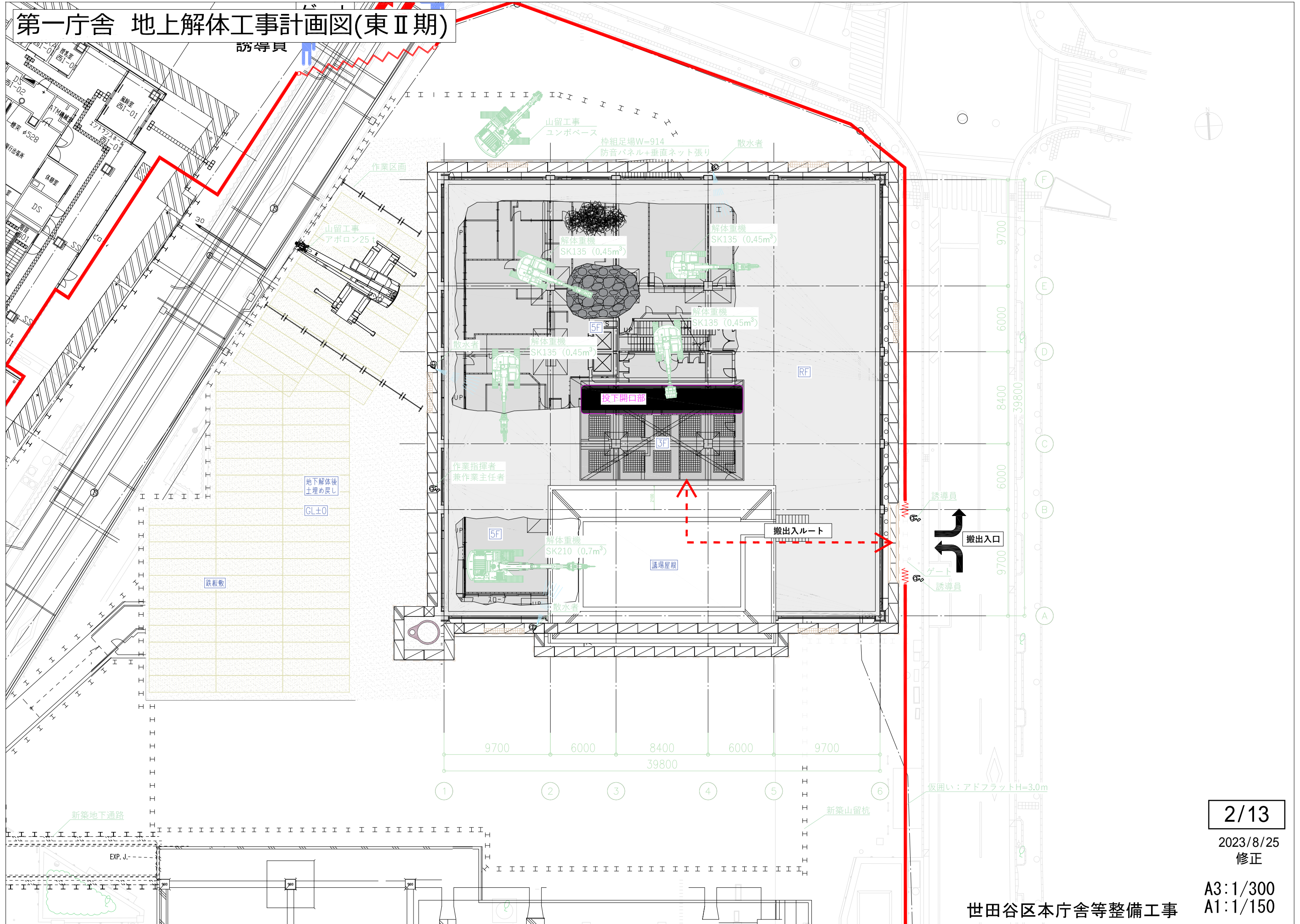
	世田谷区 指示事項	データ名
①	2期解体工事期における作業範囲の見直し	①第一庁舎地上解体工事計画図(東Ⅱ期) ②第一庁舎地下解体工事計画図(東Ⅱ期) ③第三庁舎地上解体工事計画図(西Ⅱ期)
②	2期および3期地下工事における アースアンカーの範囲	④地下工事総合仮設計画平面図(Ⅱ期) ⑤掘削基礎工事総合仮設計画平面図(Ⅲ期) ⑥地下工事総合仮設計画平面図(Ⅲ期)
③	3期地上工事における鉄骨大梁の搬入計画 及び補助タワークレーンの配置計画	⑦地上工事総合仮設平面図(Ⅲ期)
④	3期外構工事における工事着手時（2028年12月以降） の作業ヤードや資材置場等を記載した総合仮設計画図 の追加	⑧西棟Ⅲ期工事アプローチ階段の進め方

第4回 工程検証委員会（2023年8月8日）後の指示事項 指示受領日 2023年8月8日

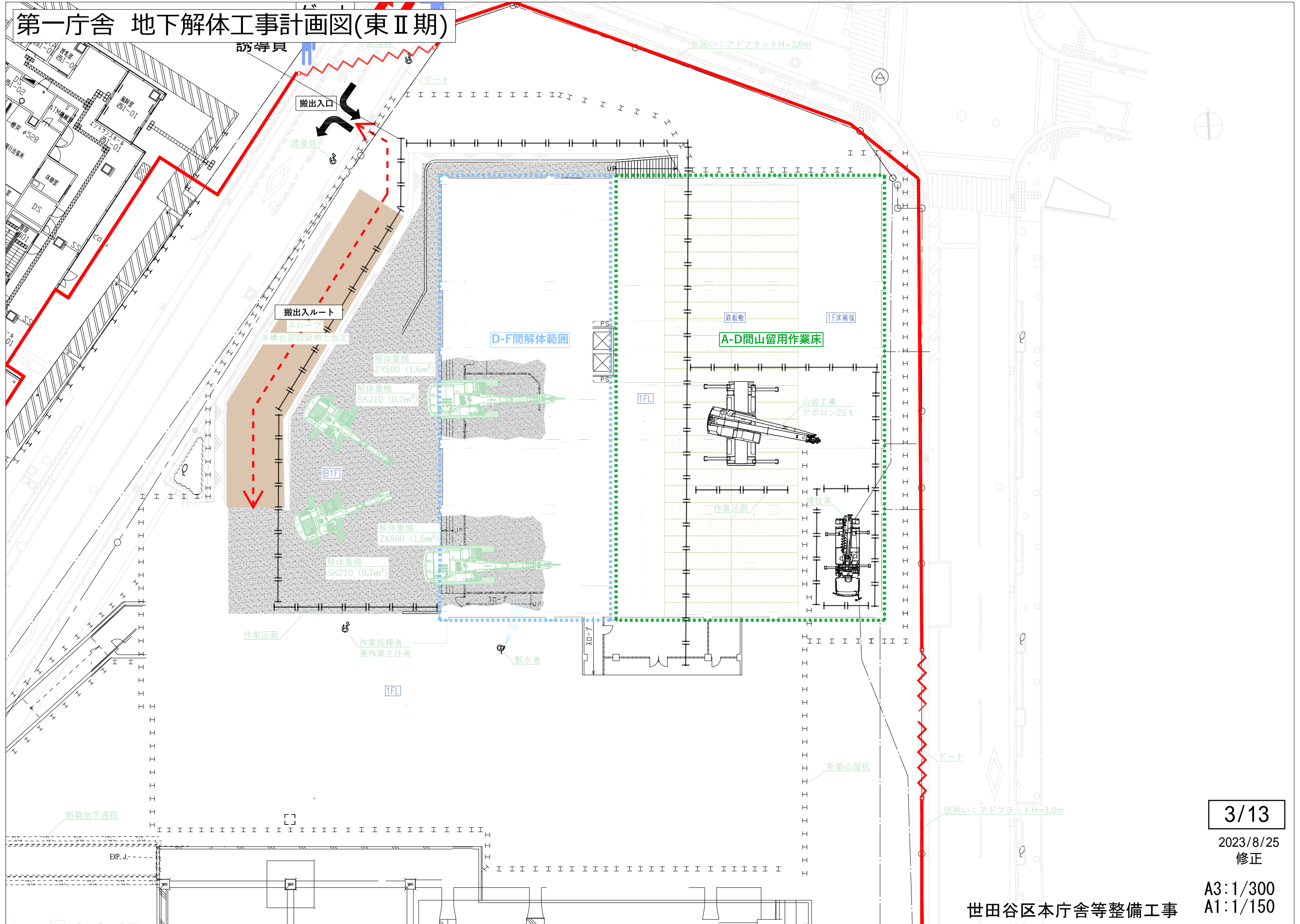
	世田谷区 指示事項	データ名
①	テラス回りの外部足場計画において、 はね出し足場等の足場計画の工夫による外装および外構着手時期を検証し、 その工程短縮効果について根拠資料を提出すること	⑨リングテラス部の工程比較
②	検証項目一覧表の修正指示 ・採否項目の表現の修正 ・備考欄の修正	⑩工程検証項目一覧表修正版

第一庁舎 地上解体工事計画図(東Ⅱ期)

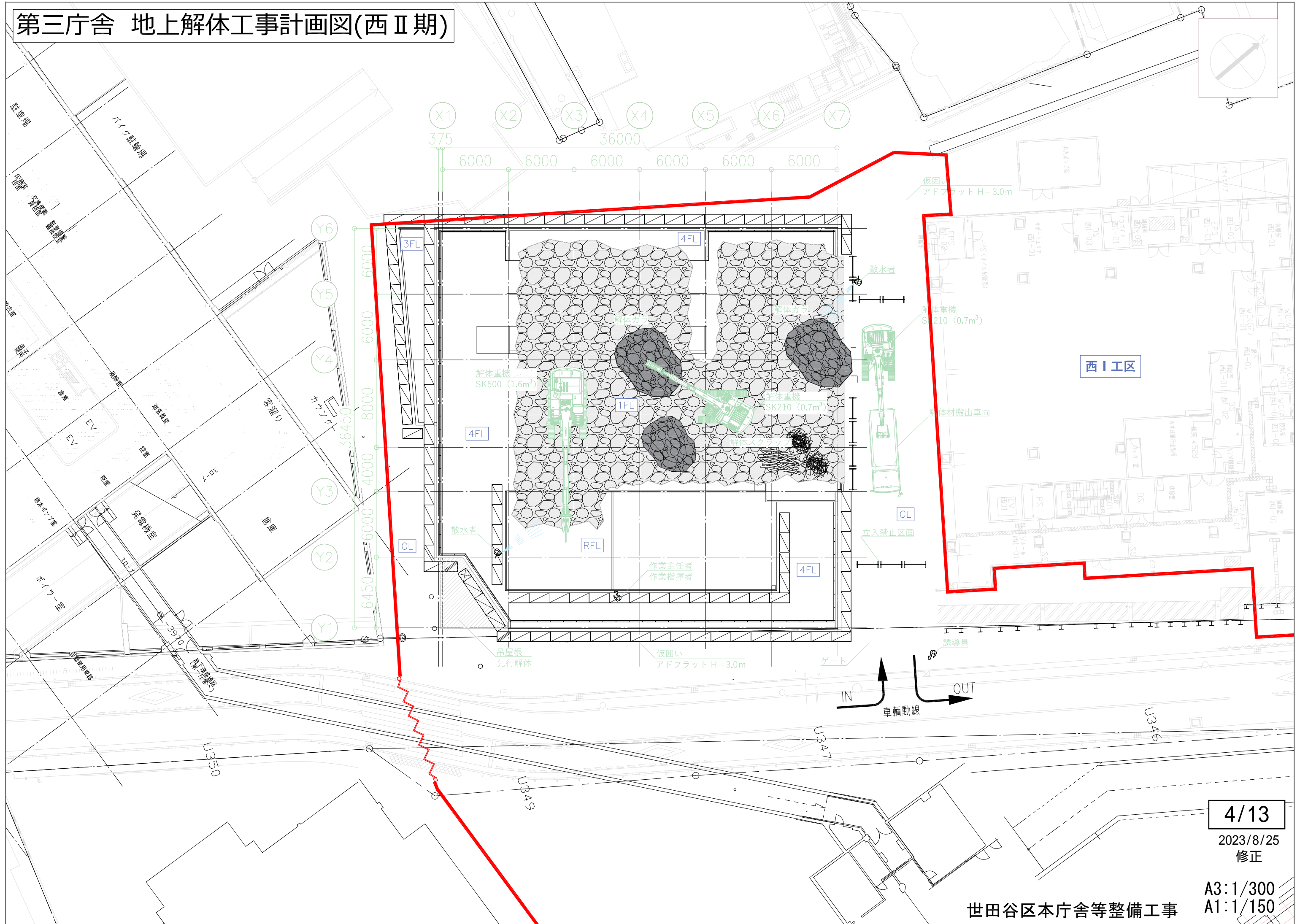
誘導員



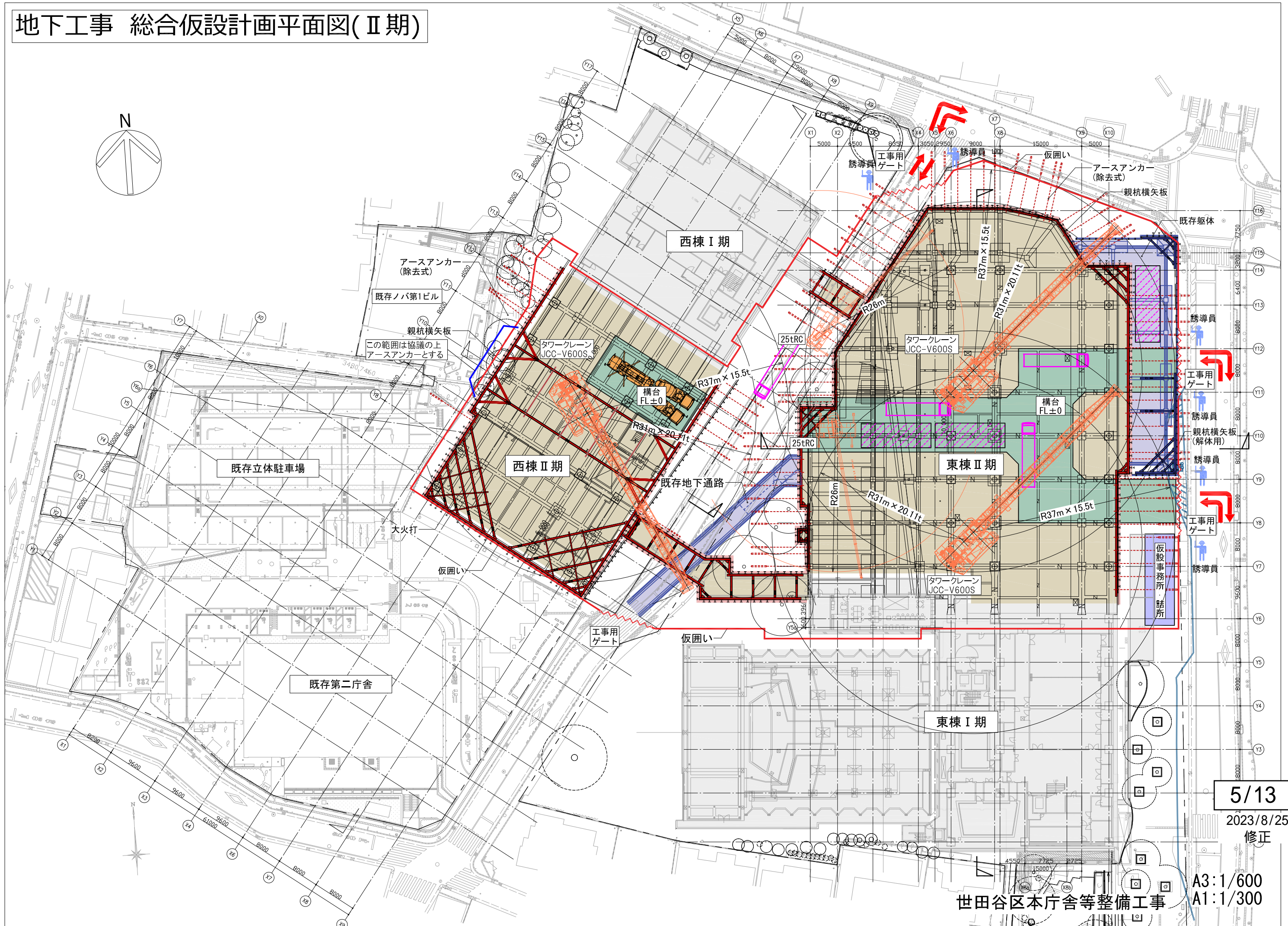
第一庁舎 地下解体工事計画図(東Ⅱ期)



第三庁舎 地上解体工事計画図(西Ⅱ期)



地下工事 総合仮設計画平面図(Ⅱ期)

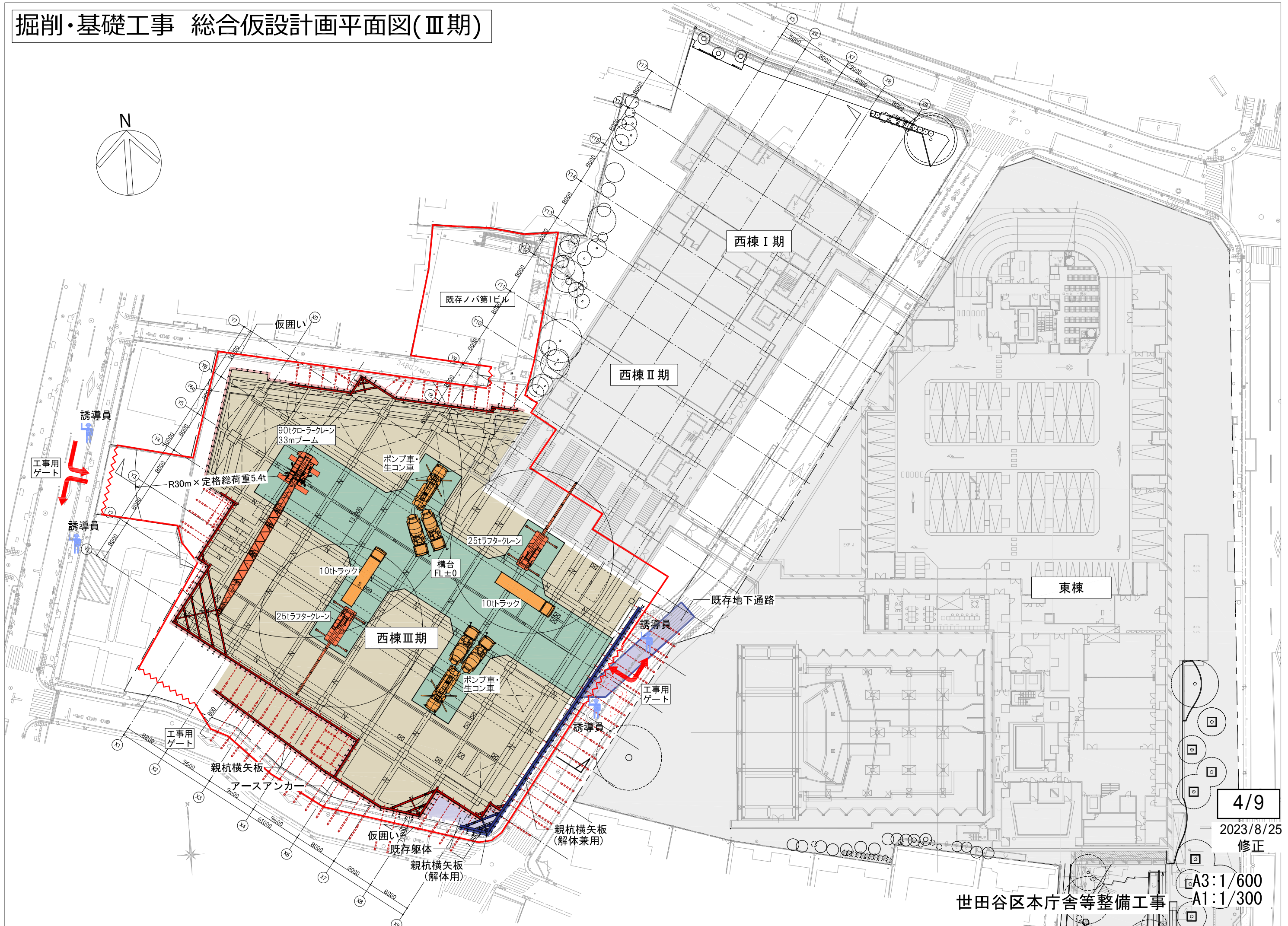


5/13

2023/8/25
修正

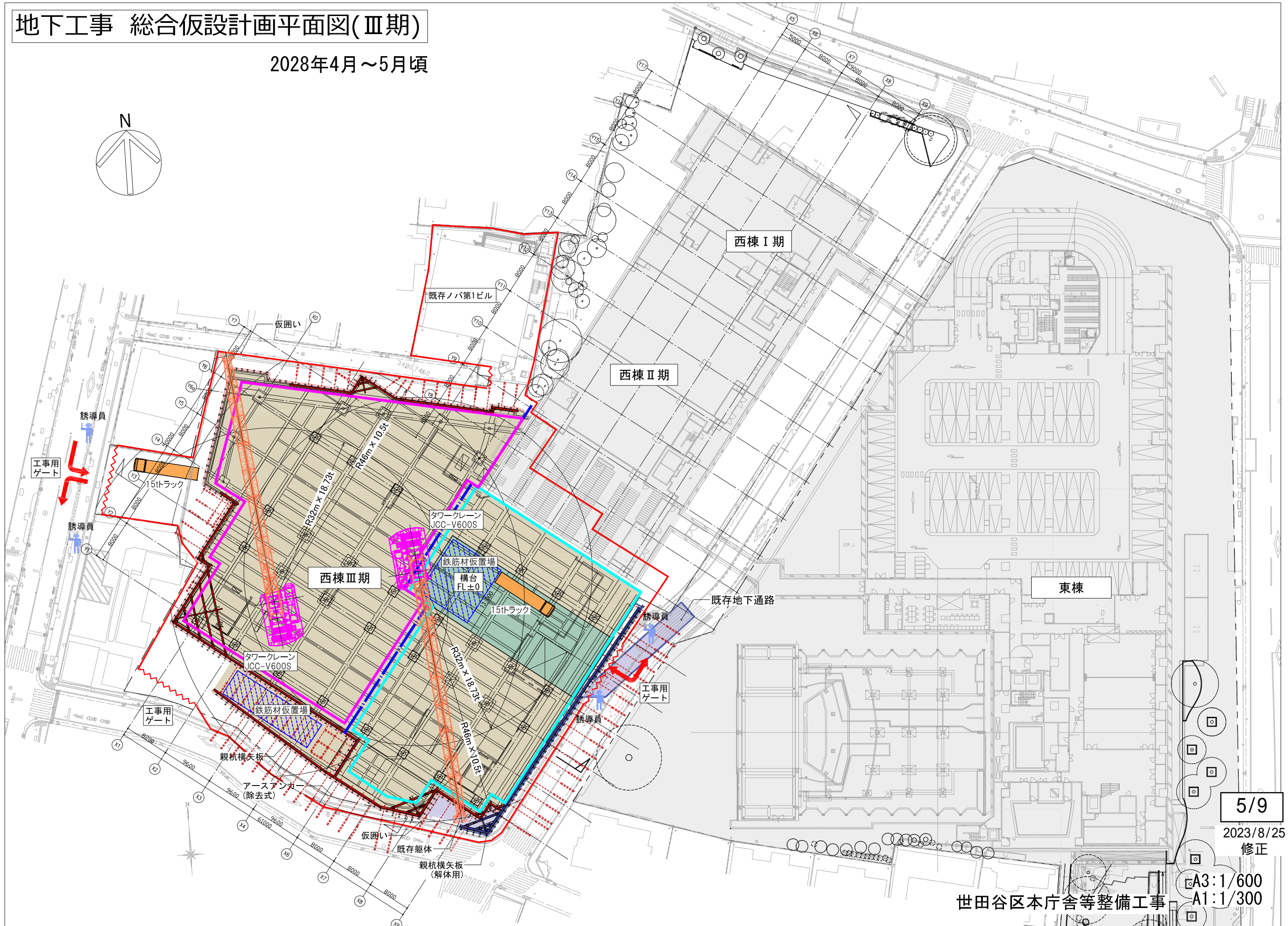
世田谷区本庁舎等整備工事
A3:1/600
A1:1/300

掘削・基礎工事 総合仮設計画平面図(Ⅲ期)



地下工事 総合仮設計画平面図(Ⅲ期)

2028年4月～5月頃



5/9

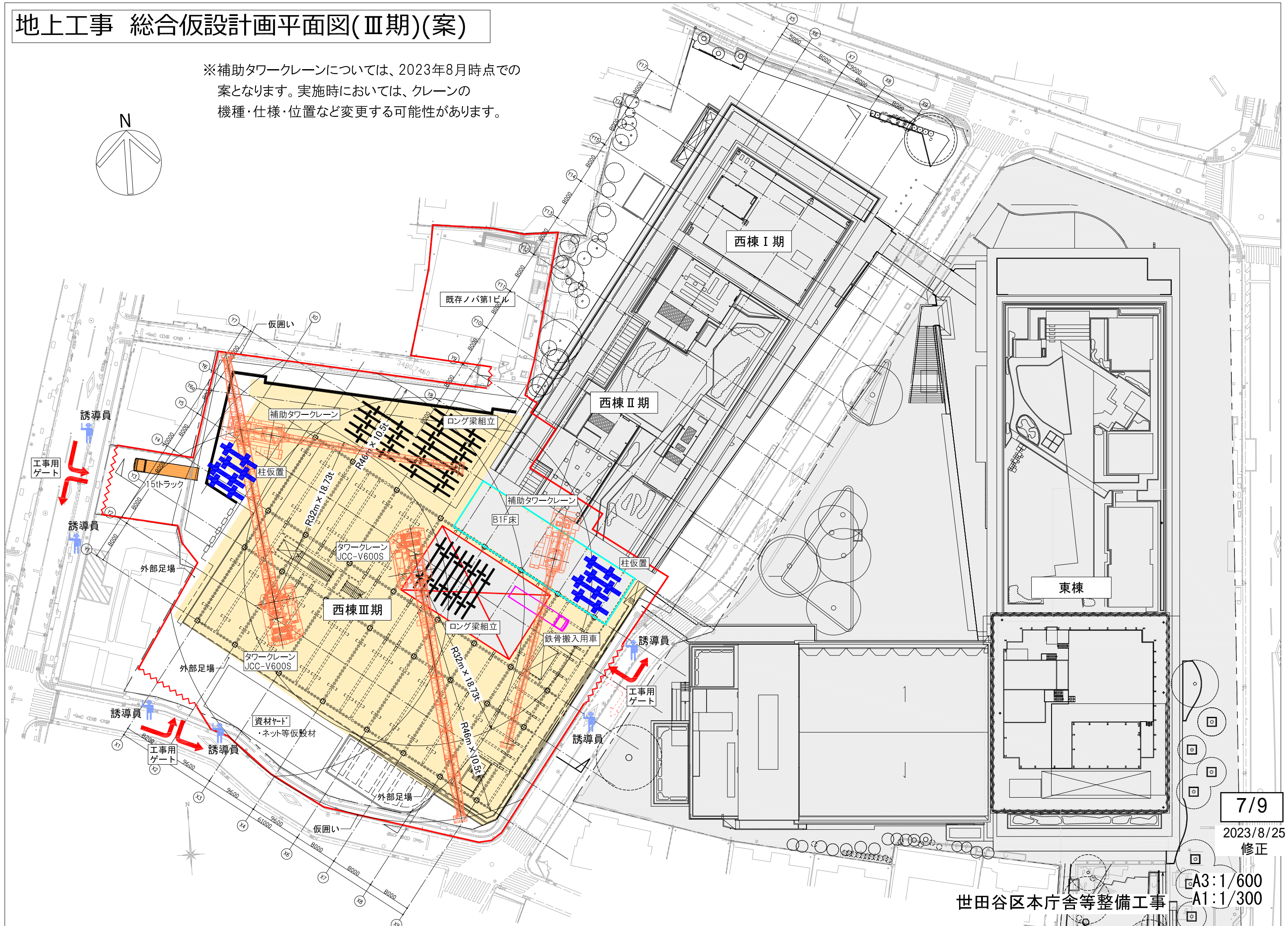
2023/8/25
修正

A3:1/600
A1:1/300

世田谷区本庁舎等整備工事

地上工事 総合仮設計画平面図(Ⅲ期)(案)

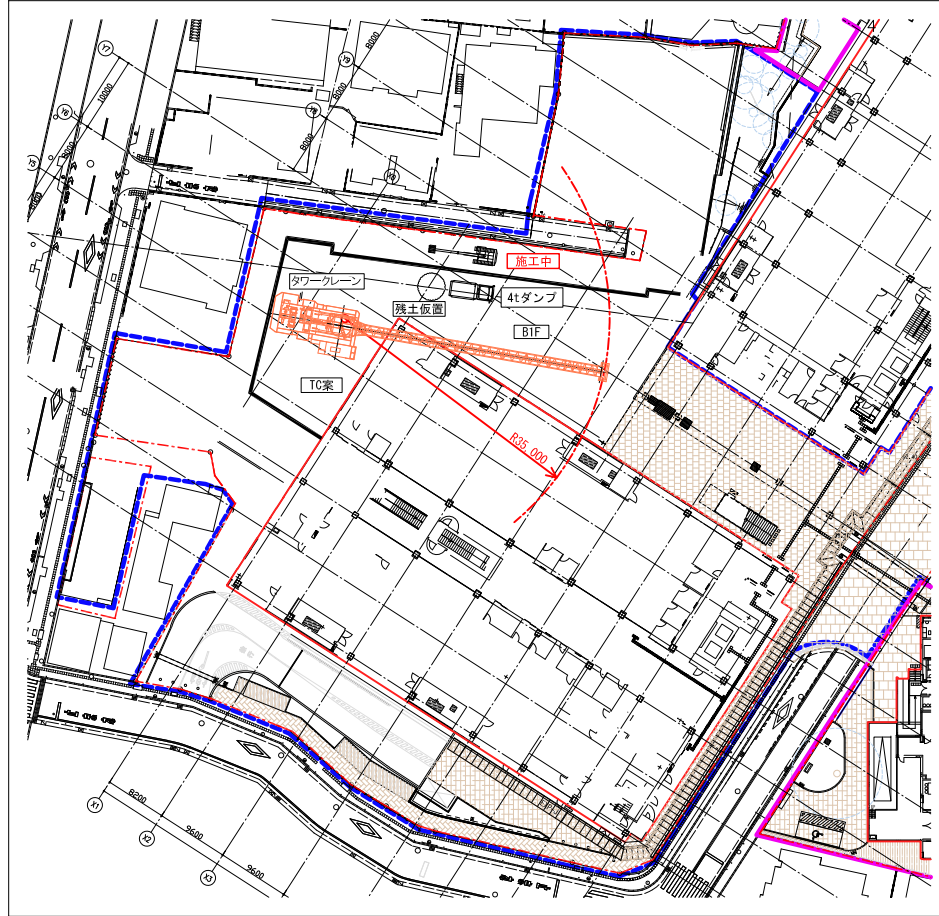
※補助タワークレーンについては、2023年8月時点での案となります。実施時には、クレーンの機種・仕様・位置など変更する可能性があります。



西棟Ⅲ期工事 アプローチ階段・スロープ関連工事 工事の進め方(案)

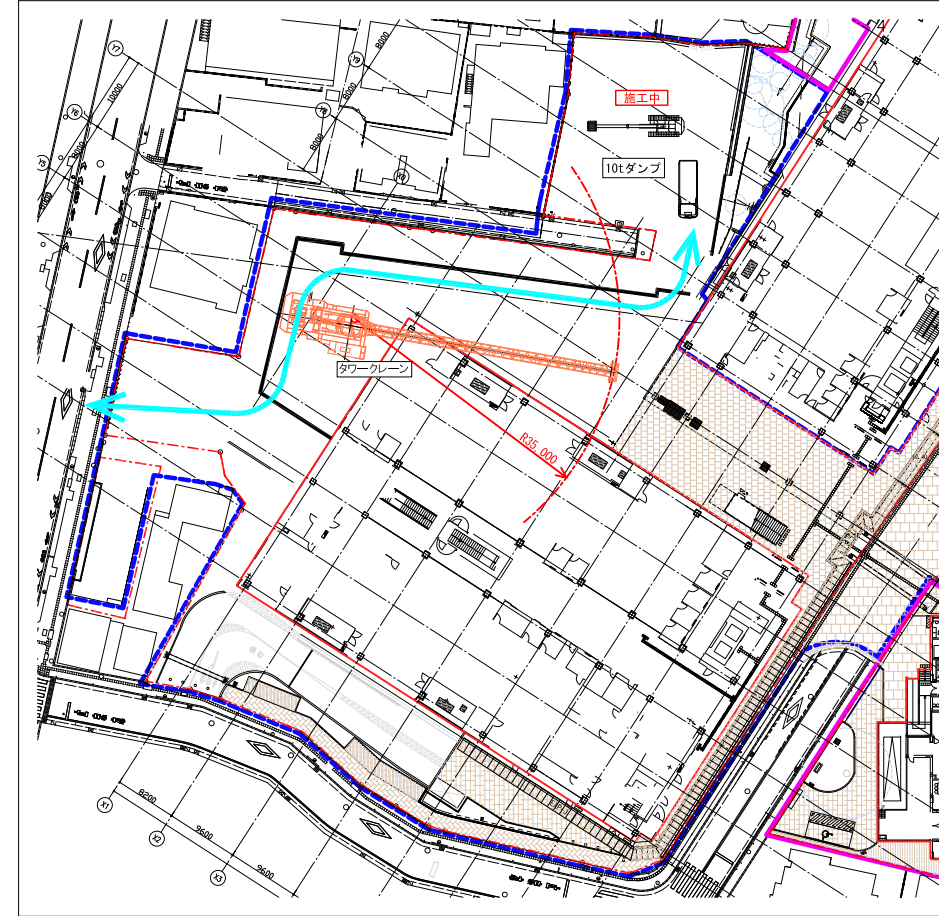
※タワークレーンについては、2023年8月時点での案となります。
実施時には、クレーンの機種・仕様・位置など変更する可能性があります。

1. 2項道路・アプローチ階段北側の排水工事



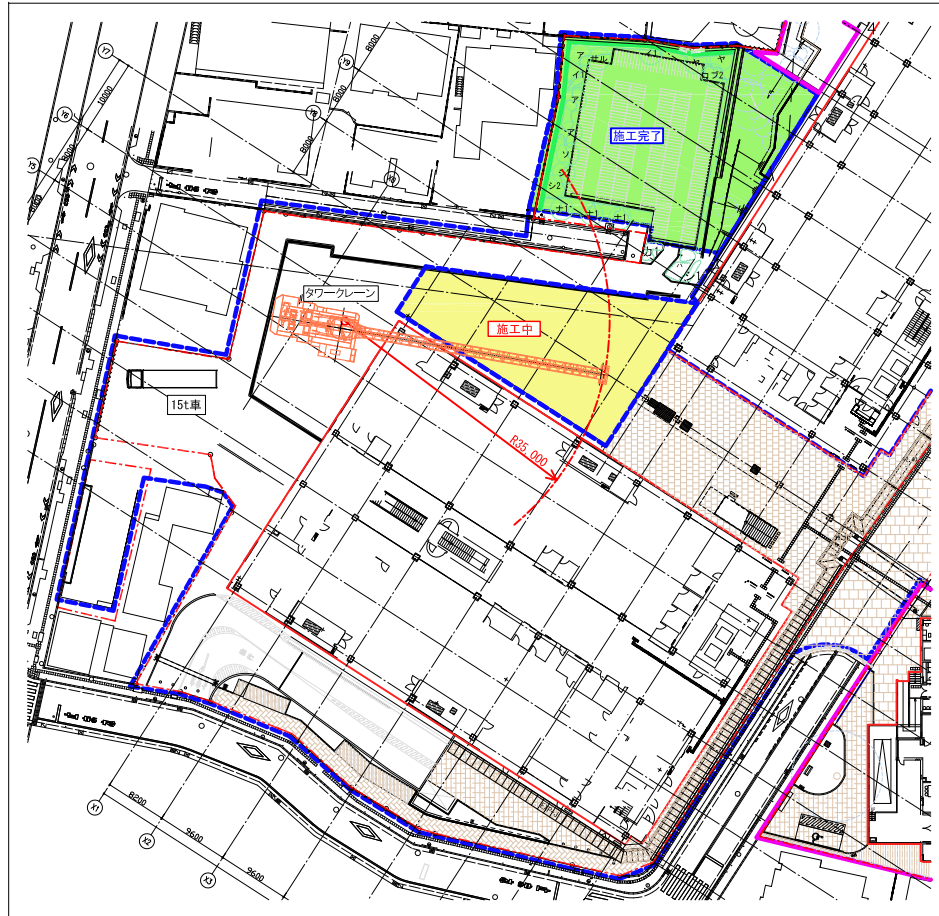
・B1Fを車輛通行路
資材・残土置場として使用

2. ノバビル跡駐輪場 屋外工事



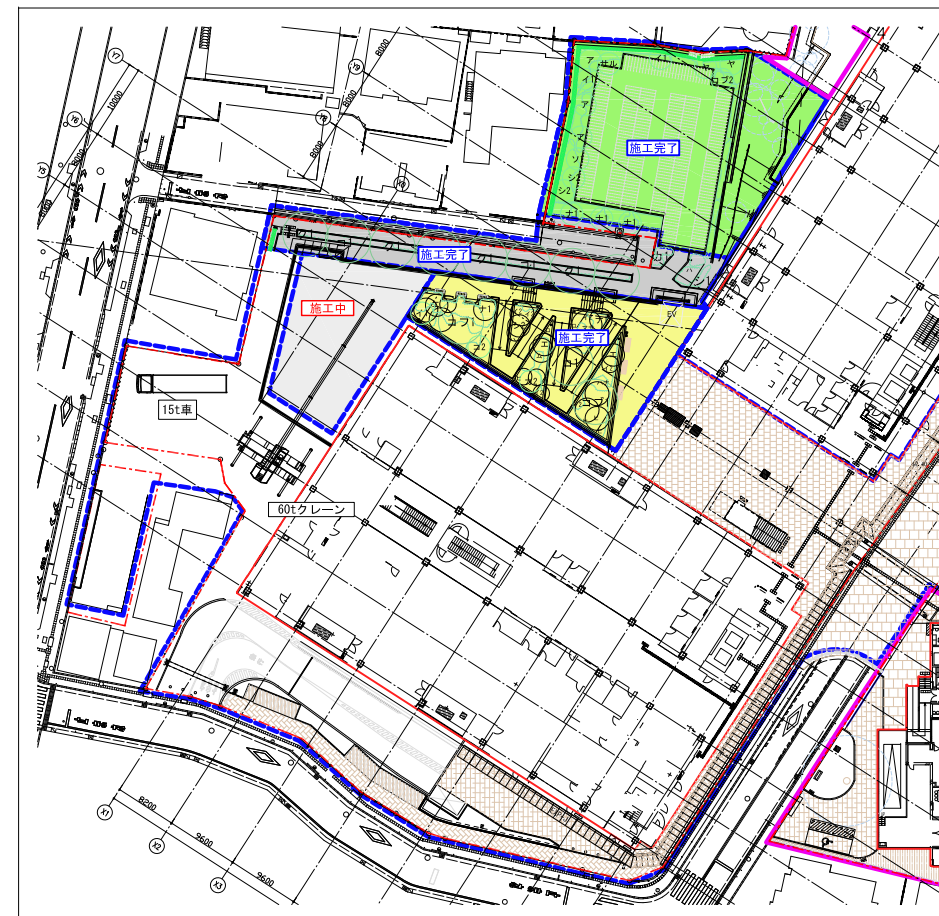
・B1Fを車輛通行路
として使用

3. アプローチ階段・スロープ[北エリア] 躯体構築～仕上工事



・TCにて躯体工事
～仕上工事を行う

4. アプローチ階段・スロープ[西エリア] 躯体構築～仕上工事

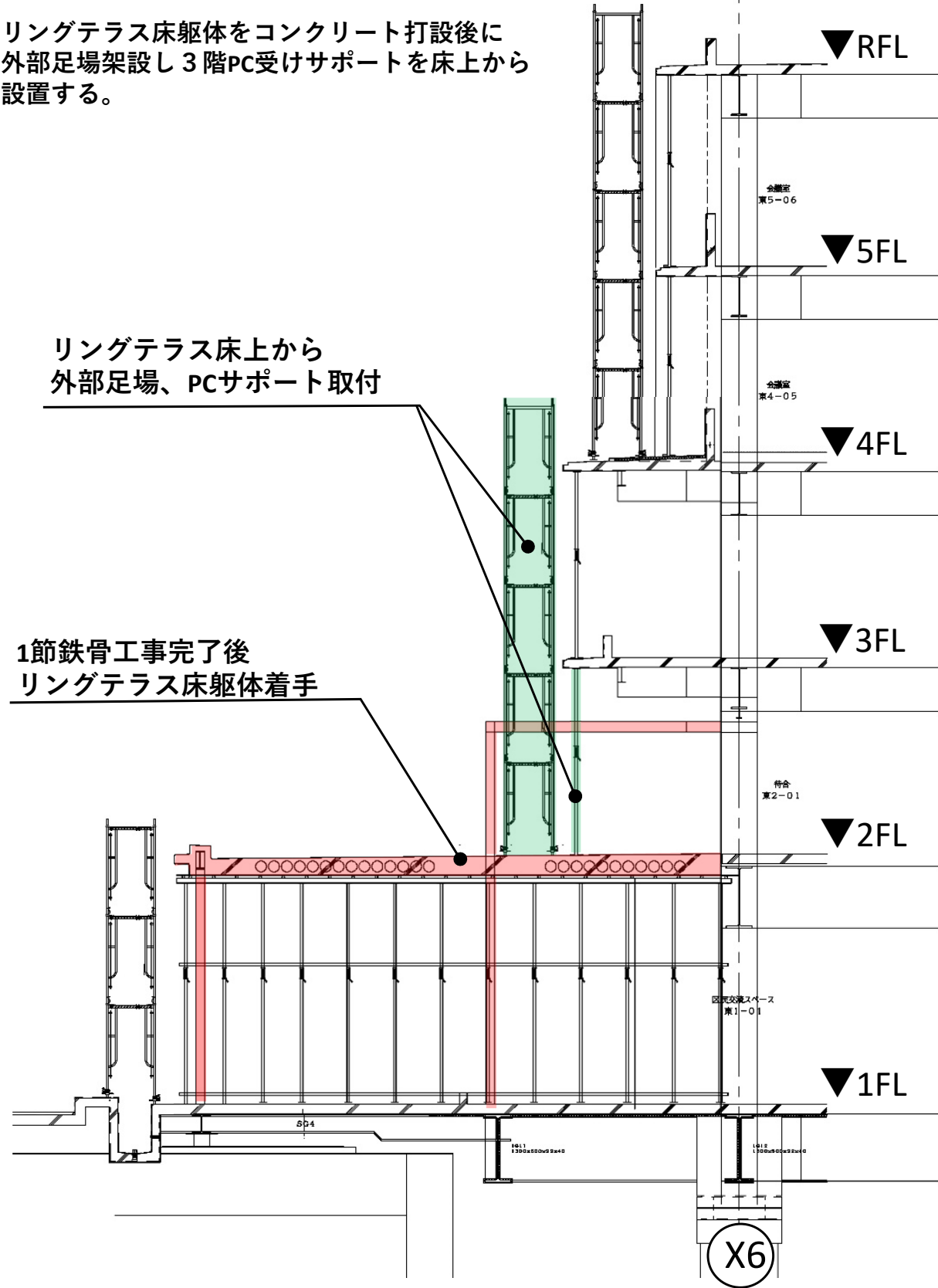


・TC解体後
躯体工事を開始する

リングテラス部の工程比較（リングテラス床順打ち工程と仮設受鉄骨工程との比較）

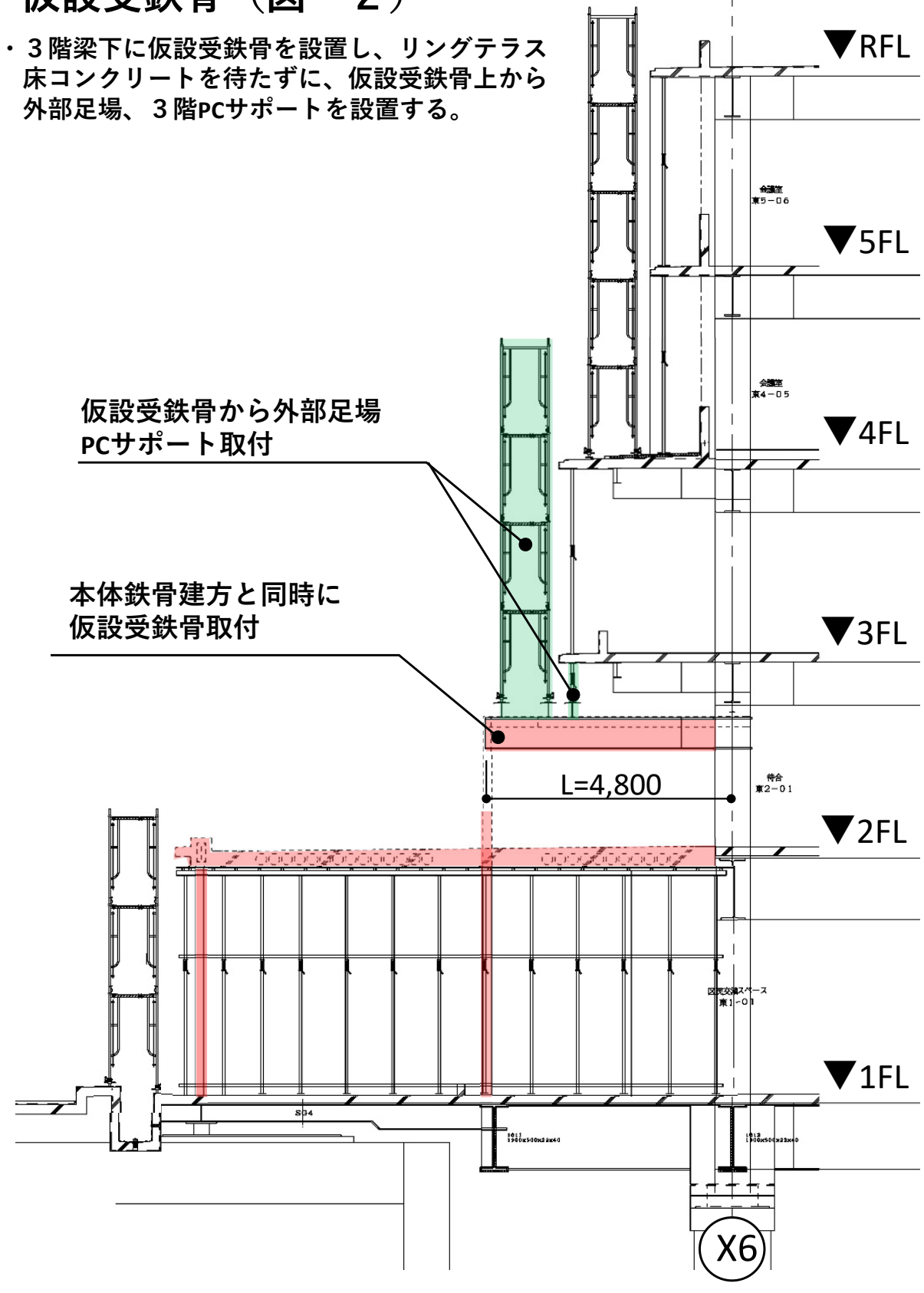
リングテラス床順打ち（図-1）

- ・リングテラス床躯体をコンクリート打設後に外部足場架設し3階PC受けサポートを床上から設置する。

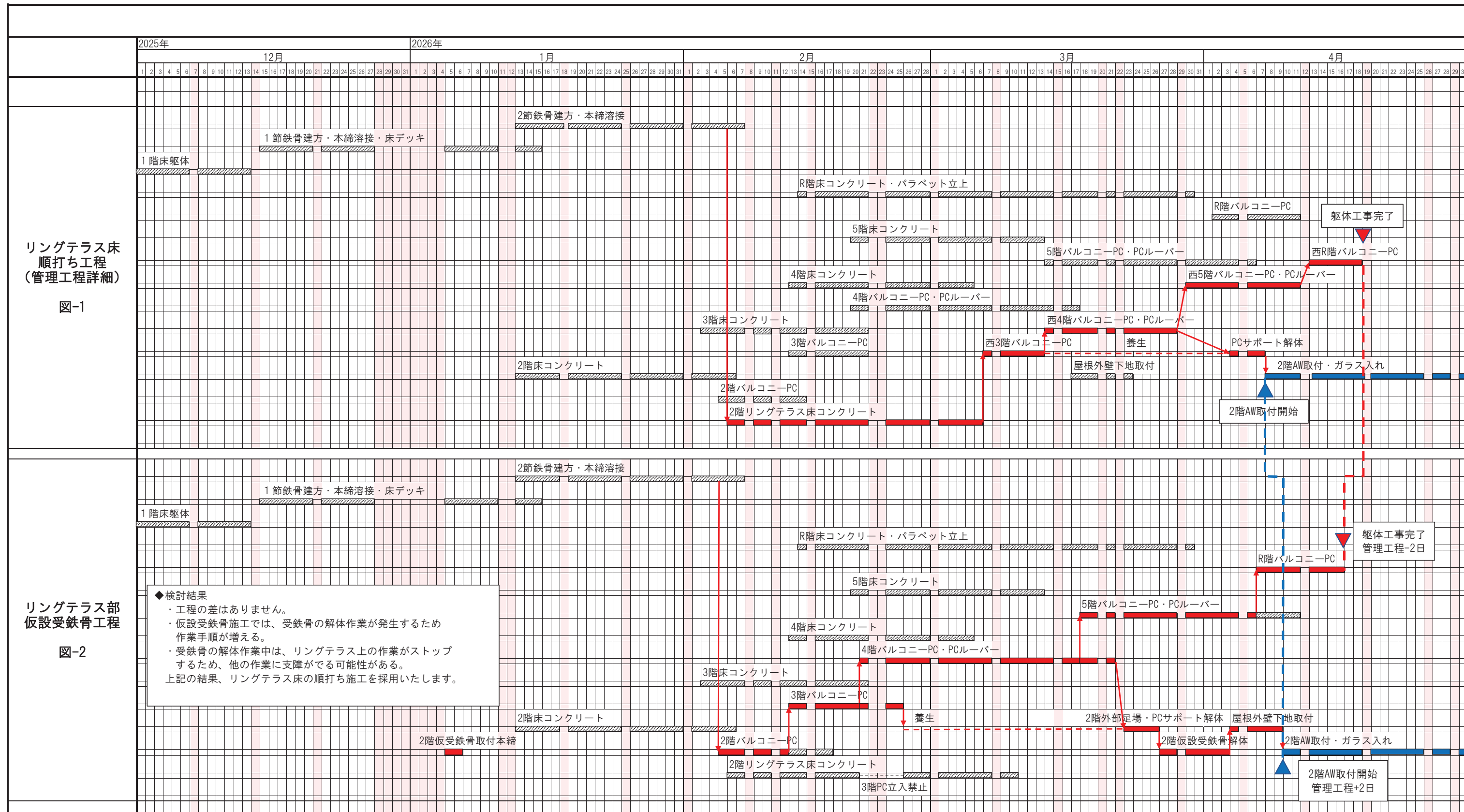


仮設受鉄骨（図-2）

- ・3階梁下に仮設受鉄骨を設置し、リングテラス床コンクリートを待たずに、仮設受鉄骨上から外部足場、3階PCサポートを設置する。



リングテラス部の工程比較（リングテラス床順打ち工程と仮設受鉄骨工程との比較）



検証項目	内容	項目種別	短縮効果(日)		備考
			A項目 (非採用の 場合からの 短縮効果)	B・C項目 (採用した 場合の更なる 短縮効果)	
【2期工事】					
01	バルコニーPC化	在来バルコニー躯体に掛かる型枠、配筋作業の効率化を図る。工法の変更であり、計画変更は不要と想定。	A	±0	2F以上のバルコニーのPC化を行う。(コーナー部については在来工法を想定している。)工程表上の短縮効果はないが、在来工法に比べ天候によるコンクリート打設中止等の工程遅延のリスクを低減できる。また、安定した躯体品質が確保できる。
02	-① 免震上部基礎PC化(フルPC)	免震上部鉄骨建方後の免震上部基礎の型枠、配筋作業の効率化を図る。25tを超え、輸送が困難。	D		
	-② 免震上部基礎PC化(ハーフPC)	免震上部鉄骨建方後の免震上部基礎の型枠、配筋作業の効率化を図る。工法の変更であり、計画変更は不要と想定。	A	▲ 2	バルコニー底PC同様、工程遅延リスク低減と安定した躯体品質確保にもつながる。
03	-① 免震下部基礎PC化(高流動部のみ)	免震下部ベースプレートのスタッドボルトやアンカーボルト位置を考慮した配筋作業の効率化、またベースプレート下部のコンクリートの充填性を向上させる。下部ベースプレートのアンカーボルト補強筋を無しとする構造検討、構造変更が必要。	D		
	-② 免震下部基礎PC化(下部柱一体)	免震下部ベースプレートのスタッドボルトやアンカーボルト位置を考慮した配筋作業の効率化、またベースプレート下部のコンクリートの充填性を向上させる。内蔵するS柱を無しとする構造検討、構造変更が必要。	C		▲ 6 免震下部基礎とその直下の柱を一体としてPC化の詳細検討を行う。
04	-① B1F_SRC造梁の施工合理化①(PC化)	梁底受け支保工足場上での型枠、配筋作業の効率化を図る。ジョイント部等の検討が必要。構台下等PCでは施工困難な部材も多く、施工が複雑化し、工程的メリットも少ないため不採用。	D		
	-② B1F_SRC造梁の施工合理化②(S造への変更)	梁底受け支保工足場上での型枠、配筋作業の効率化を図る。大々的な設計変更となるため、性能評価、大臣認定の変更が必要。	C		▲ 12 地下1F SRC部分の梁について詳細検討を行う。(東棟、西棟とも)
05	RC躯体PC化(X1~5_B1F・B2F)	在来柱・梁躯体の型枠、配筋作業の効率化を図る。ジョイント部の納まり、継手方法等検討要。	C		▲ 12 東棟X1~X5の範囲のB2F立上り躯体、B1F立上り躯体のうち、柱・梁のPC化の詳細検討を行う。
06	作業時間・工区割	基礎躯体工事、地下躯体工事時のクレーン設置台数が最大となる工区割を検証したうえで、コンクリート打設時間の見直しを実施。	B		▲ 12 ポンプ車の最終退場時間を17:00から18:00に見直し。
07	引越し時作業	全フロアの移転が完了する前に、フロアごとに早期内装解体着手を行う。	B		▲ 7 第1庁舎 3階から5階の照明器具等機器の撤去を引越し期間中に実施する。
08	リングテラスのスラブ躯体施工時期	リングテラスのボイドスラブを後施工にせず、地上鉄骨工事と同時に施工。	A	▲ 14	
【3期工事】					
01	バルコニーPC化	在来バルコニー躯体に掛かる型枠、配筋作業の効率化を図る。工法の変更であり、計画変更は不要と想定。	A	±0	2F以上のバルコニーのPC化を行う。(コーナー部については在来工法を想定している。)工程表上の短縮効果はないが、在来工法に比べ天候によるコンクリート打設中止等の工程遅延のリスクを低減できる。また、安定した躯体品質が確保できる。
02	-① 免震上部基礎PC化(フルPC)	免震上部鉄骨建方後の免震上部基礎の型枠、配筋作業の効率化を図る。25tを超え、輸送が困難。	D		
	-② 免震上部基礎PC化(ハーフPC)	免震上部鉄骨建方後の免震上部基礎の型枠、配筋作業の効率化を図る。工法の変更であり、計画変更は不要と想定。	A	▲ 3	バルコニー底PC同様、工程遅延リスク低減と安定した躯体品質確保にもつながる。
03	-① 免震下部基礎PC化(高流動部のみ)	免震下部ベースプレートのスタッドボルトやアンカーボルト位置を考慮した配筋作業の効率化、またベースプレート下部のコンクリートの充填性を向上させる。下部ベースプレートのアンカーボルト補強筋を無しとする構造検討、構造変更が必要。	D		
	-② 免震下部基礎PC化(下部柱一体)	免震下部ベースプレートのスタッドボルトやアンカーボルト位置を考慮した配筋作業の効率化、またベースプレート下部のコンクリートの充填性を向上させる。もともとRC造であるため計画変更は不要と想定。	A	▲ 11	バルコニー底PC同様、工程遅延リスク低減と安定した躯体品質確保にもつながる。
06	作業時間・工区割	基礎躯体工事、地下躯体工事時のクレーン設置台数が最大となる工区割を検証したうえで、コンクリート打設時間の見直しを実施。	B		▲ 8 ポンプ車の最終退場時間を17:00から18:00に見直し。
07	引越し時作業	全フロアの移転が完了する前に、フロアごとに早期内装解体着手を行う。⇒引越作業量が多いため、早期内装解体着手は困難と判断。	D		
09	外部足場設置方法	アプローチ階段・スロープ部分の外部足場を2階鉄骨から持ち出す仮設鉄骨上より設置する。	A	▲ 90	
10	二項道路の工事車両通行	工事用車両の動線として使用する。(アプローチ階段・スロープ部分の工程短縮を目的として)	D		±0
11	中央区道占用可能	工事ヤードとして使用する。(地上躯体工事の工程短縮を目的として)	B		▲ 21 地上躯体工事施工期間の短縮が可能。(地下1F梁鉄骨工事開始前からおよそ5カ月間)

※短縮効果日数は、暦日で記載しております。[実作業日数÷年間平均稼働率]

※項目種別 A・B・C・D について

A: 令和5年7月14日提出の管理工程表に反映済み
 B: 今後、区と大成建設が協議の上、採否を判断
 C: 今後、の構造設計変更について詳細検討を実施し、設計者と協議の上、採否を判断
 D: 検討の結果、不採用と判断